

令和4年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立吉田中学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を持ち、地域とともに歩む生徒の育成							
基本方針	宇和島市教育大綱の理念に基づき、未来を切り拓いていく豊かな心とたくましく生きる力を育むため、地域総がかりで取り組む教育を推進する。 1 知、徳、体のバランスがとれた「たくましく生きる力」を育む教育を推進する。 2 生徒一人一人が認め合い高め合いながら、自己や学校、郷土に誇りを持てる教育を推進する。 3 全教職員が高い志と実践的指導力のある、教育愛にあふれた学校づくりを目指す。 4 家庭・地域との連携を更に進め、家庭・地域から応援され信頼される学校づくりを目指す。							
本年度重点目標	1 「たくましく生きる力」を育む教育 2 自信と誇りを持てる教育の推進 3 教育愛にあふれた学校づくり 4 応援され、信頼される学校づくり							
評価項目	評価小項目		評価の観点		評価資料	評価 評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。		・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B	
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却)		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A		
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
	(成果と課題) ○ 研修主任を中心とした校内での研究組織による取組により、生徒を主体とした授業改善、タブレット端末の活用など、共通理解、共通実践することができた。 ○ 家庭学習の充実に努めているが、学校と家庭では結果に違いがある。家庭学習での取組が、形式的なものにならないよう、工夫・改善していく必要がある。 ○ 前期に比べ、読書活動の充実が改善が見られたものの、本校の課題の一つであると捉えている。							
	(改善策等) ○ 各種調査の結果分析に基づき、本校の実態に応じたきめ細かな学力向上の取組を実践していきたい。 ○ 学年部やスクール・サポート・スタッフ等との連携により、確実な家庭学習の提出確認を行っていきたい。 ○ 読書活動については、引き続き、生徒会活動や学級活動を通じて、読書の意義等の啓発を行っていきたい。							
	評価項目	評価小項目		評価の観点		評価資料	評価 評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
				いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
		③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿 ・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A A A	A	
(成果と課題) ○ 体育祭や文化祭、総合的な学習の時間等の充実により、自己肯定感や自己有用感の醸成を図ることができた。 ○ 悩みを抱えている生徒もいるため、家庭や関係機関との連絡・連携を密にとりながら、一人一人の生徒の状況把握に努め、生徒や家庭に寄り添った支援が必要である。								
(改善策等) ○ 学校運営協議会やPTA地区理事会と連携しながら、制服の見直しや実態に即したきまりの改定などについて、生徒も含めた取組を推進していきたい。								

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	D	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	②	働きやすい環境づくり	業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。	・教師アンケート	C	C
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題)					
	○ 文化祭やマラソン大会等の学校行事の企画・準備などにおいて、実施内容の見直しを図ることにより、業務改善につながるよう努めた。					
	○ 一部の教員への負担が過度になっている状況は改善されていない。					
	(改善策等)					
	○ スクール・サポート・スタッフの協力などにより、業務内容が多くなっている教員の支援を図っていきたい。					
○ 地域の実態を踏まえた上で、業務改善につながる見直しは積極的に行っていきたい。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題)					
○ 多くの学校行事において、保護者や学校運営協議会の委員などに来校していただく機会が多く持てた。また、地域の関係機関よりお声掛けをいただき、生徒が地域の行事にも積極的に参加することができた。						
○ ホームページの更新や各種通信の発行等により、保護者や地域の方への情報発信を継続して行うことができた。						
(改善策等)						
○ 今後も、生徒が学校運営協議会に参加する機会を設け、生徒・学校・地域の実態に即した特色ある学校づくりを推進していきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満